

1 単元名 表現 「対決！」

2 運動の特性

(1) 一般的特性

自己の心身を解き放して、イメージの世界に没入しなりきって自由に踊ったり、表したいイメージをもち、自由に動きを工夫して踊ったりすることが楽しい運動である。

(2) 子どもから見た特性 (男子14名 女子15名 計29名)

A 運動の楽しさの体験状況

①体育の学習は好きですか。

とても好き	好き	嫌い	とても嫌い
22名	5名	1名	1名
・体を動かすことが好きだから	24名	・体を動かすときついから	1名
・いろいろな運動ができるから	2名	・うまくできないから	1名
・体力がつくから	1名		

②踊ることは好きですか。

とても好き	まあまあ好き	どちらでもない	あまり好きでない	嫌い	
14名	7名	4名	3名	1名	
・リズムに乗るのが楽しいから	13名	・ふつうだから	2名	・踊るのは好きではないから	2名
・自由に踊れるから	2名	・上手な人と下手な人で分かれるから	1名	・自信がないから	1名
・かっこいいから	2名	・振り付けが難しいから	1名	・疲れるから	1名
・自分の限界を知れるから	1名				
・いろいろな踊りがあるから	1名				
・私生活で使えるから	1名				
・みんなと踊るのが楽しいから	1名				

③「表現」の学習は好きですか。

とても好き	まあまあ好き	どちらでもない	あまり好きでない	嫌い	
8名	4名	8名	6名	3名	
・楽しいから	6名	・表現をつくるのが難しいから	2名	・楽しくないから	3名
・自分の思いを伝えられるから	3名	・うまく表現できないときがあるから	1名	・難しいから	3名
・表現力が高まるから	1名	・無回答	5名	・恥ずかしいから	1名
・ストレス解消になるから	1名			・緊張するから	1名
・自分の可能性を広げられるから	1名			・自由ではないから	1名

④踊っているときの楽しさはどこにあると思いますか。(自由記述)

・思い通りに体が動いたとき	7名	・心がうきうきしてくるとき	7名
・リズムに乗って体を動かすとき	5名	・みんなが笑顔になるとき	3名
・みんなと心や動きが合うとき	2名	・振付けを覚えたとき	2名
・いろいろな動きをするとき	1名	・どのような動きをしようか考えるとき	1名
・周りの人が拍手してくれるとき	1名		

## B 運動の楽しさを求める学び方の習得状況

①自分に合っためあてをもって学習することができますか。

できる	できない
25名	4名

②「表現」の学習では、どのようなめあてを立てますか。(自由記述)

・見ている人に伝わるように踊る	9名	・なりきって踊る	5名
・体全体を使って、大きく踊る	4名	・自由に楽しく踊る	3名
・いろいろなイメージをもって踊る	2名	・恥ずかしがらずに踊る	2名
・友達と協力して踊る	1名	・無回答	3名

③これまで学んできた「表現」の学習で、身に付いていると思うものはどれですか。(複数回答)

質問項目	人数 (%)
自分のめあてをもって学習することができる	24名 (80%)
友達のよい動き(おもしろい動き)を見つけることができる	23名 (76%)
友達と一緒に(誰とでも)楽しく踊ることができる	20名 (66%)
友達と話し合い協力して、学習をすすめることができる	20名 (66%)
友達のよい動きをまねしたり、相手の動きに合わせておどったりすることができる	19名 (63%)
友達にアドバイスをすることができる	15名 (50%)
友達の考えを聞いて、自分にいかすことができる	14名 (46%)

④学習を進めていく上で、困ったときはどうしますか。

質問項目	人数 (%)
友達と協力して、一緒に踊ってみる	15名 (51%)
友達や先生にアドバイスをもらい踊ってみる	6名 (20%)
自分で考え、何度か踊ってみる	4名 (13%)
友達の動きを参考にして踊ってみる	4名 (13%)

⑤一人で踊るより、「友達とかかわり合って踊ること」のよさはどこにあると思いますか。

・みんなで踊るほうが、楽しさが増す	・自分も、友達もうまくなる
・普段の生活でもかかわることが増える	・友情(絆・心)が深まる
・アイデアを出し合える	・一人一人の良いところが出る

C 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況

①どのように踊ることができますか。(複数回答)

質問項目	人数 (%)
友達と楽しみながら踊る	27名 (90%)
体をねじったり、回したり跳んだりして、体の部分を使って踊ることができる	22名 (73%)
素早く動く、ゆっくり動く、止まるなど動きのリズムを意識して踊ることができる	19名 (63%)
友達と離れたり、くっついたりする動きを取り入れて踊ることができる	16名 (53%)
そのものになりきって踊ることができる	14名 (46%)
思いついたイメージをその場で動きにすることができる	13名 (43%)
方向や場の使い方(空間)を意識して、動くことができる	11名 (36%)
友達がしかけてくる動きに、すぐに対応して動くことができる	10名 (33%)

<考察>

A 運動の楽しさの体験状況について

本学級の子どもたちは、「体育の学習が好きですか。」という質問に対して、「嫌い」「とても嫌い」と答えている子どもが2名なのに対し、「表現」の学習が好きかという質問には「あまり好きではない」「嫌い」と答えている子どもが9名と多い。その理由として、『楽しくない』『難しい』と答えている。このことから、表現の学習において、「イメージの世界に没入してなりきって自由に踊る」楽しさを十分に味わっていないことが伺える。

また、子どもたちの様子から、曲に合わせて振り付けを覚えて踊ることの楽しさは経験しているが、「表したいイメージを思いつくままに自由に踊る」楽しさを経験することに関しては不十分だと感じられる。以上のことから、子どもたちが自由に踊り、楽しさを感じるためにはイメージしやすい題材が必要であると考え。そこで、本単元では題材の取り上げ方を大切にして、子どもたちが楽しく踊ることができるようにしたい。

「踊っているときの楽しさはどこにあると思いますか」という質問に対して、「思い通りに体が動いたとき」と答えるなど「動き」について書いている子どもと、「みんなが笑顔になるとき」「みんなと心や動きが合うとき」と答えるなど「友達」について書いている子どもが多く見られた。表現を難しいと考えている子どもに個別にたずねたところ、友達の真似ならできそうだと答えている。以上の結果から、「友達の動きをよく見て、かかわり合って踊ること」で楽しさを感じられると考える。自らが動きながら友達の動きを見る活動と、友達の動きを見ることに集中する活動の両方を取り入れることで、友達とのかかわり合いの中で動きの幅を広げられるようにする。友達の動きを見ることを大切にするために、2人組の活動から始めていく。

## B 運動の楽しさを求める学び方の習得状況について

本学級の子どもたちは、3年生のときに題材「ジャングル探検」で表現運動発表会に参加している。また、4年生では、「リズムダンス」の学習を通して、リズムによって楽しむ経験をしている。「学習を進めていく上で、困ったときはどうしますか」という質問には「友達と協力して、一緒に踊ってみる」という回答が一番多かった。しかし、「これまで学んできた『表現』の学習で、身に付いていると思うものはどれですか」という質問では、「友達の考えを聞いて、自分に生かすことができる」、「友達にアドバイスをすることができる」と答える割合が他の項目に比べて低かった。このことから、本学級の子どもたちは友達とのかかわりが大切だと分かっているが、表現の学習でかかわり合いながら踊る経験が少なかったり、かかわり合って学ぶ学び方を習得できていなかったりすることが考えられる。

そこで本単元では、「友達とかかわり合って踊る」ことを学べるようにしていく。友達とかかわり合って踊る楽しさがあるということを知っている子どもたちは感じているので、友達の「動きをまねる」「動きに反応する」ことをきっかけにして、動きの幅を広げていきたいと考える。また、「見合う」活動から、お互いのよいところを認め合ったり、アドバイスをしたりしてお互いを高め合ったりすることができるようにしたい。

## C 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況について

表現の学習が「あまり好きではない」「嫌い」と回答し、その理由として『楽しくない』『難しい』と挙げていた子どもたちに詳しく聞いたところ、「どのように動けばよいかわからない」「カルタの段階で難しさを感じる」と答える子が多くいた。

「どのように踊ることができますか」という質問に対しては、「友達と楽しみながら踊る」以外の習得状況は概ね低いことから、表現を楽しむために大切な動きを具体的に考えながら踊る経験が少ないことが伺える。

そこで、技能のポイントを提示することで、子どもたちが意識しながら踊ることができるようにする。大切にしたい技能を明確にし、つながる運動に取り入れたり、教師の声かけや称賛で強調したりすることで、子どもたちが踊ったり、見合ったりするときに意識できるようにしたい。

また、「表したいイメージにふさわしい動きを見付ける」ことが、踊るときの動きにかかわる。本学級の子どもたちは、「思いついたイメージをその場で動きにすることができる」という質問に対しても習得できている子が少ないことが伺える。動きにつながる「表したいイメージ」をしっかりともてるような手立てを講じていく必要がある。

### 3 研究の視点と学習の手立て

#### (1) 市教研体育部会の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

#### (2) 研究の視点および学習の手立て

＜視点1＞ 子どもの実態を的確に把握し、運動の特性と指導内容を明確にしたうえで、道すじや学習活動を工夫し、ねらいを明らかにすることで子どもたちが学習意欲やめあてをもって取り組めるようにする。

#### ○ 題材の取り上げ方

表現運動の特性にある「イメージの世界に没入してなりきって自由に踊る」ことを十分に味わうことが、表現を好きになる第一歩だと考える。本学級の子どもたちの様子を見てみると、表現したいイメージをつかむことが難しいように感じる。そこで、実際の経験はなくとも、できるだけ自分が見たり、聞いたり、読んだりと擬似体験したものを題材にすれば、よりイメージをつかみやすくなると考えた。そこで、本単元では子どもたちがイメージをつかみやすい題材として「対決！」を取り上げた。

「対決！」は2人組での活動を中心として、向かい合う対立したオーバーアクションの動きや追う追われるに対応した動きを味わうことができる題材である。友達と向かい合って踊ったり、同じ方向を向いて踊ったりすることで動きの掛け合いがしやすく、友達の真似をしたり、友達の動きに反応したりと一人で動くよりもイメージの世界に入りやすく表現の面白さを味わいやすいと考え、動きの面でも本学級の子どもたちに合った題材として選んだ。

イメージをつかみやすくするために、写真や本、映像など資料を掲示してイメージを広げてから、イメージバスケットとカルタをつくっていく。一人一人がイメージをもてるようにすることで、安心して表現の学習に取り組めるようにしたい。また、踊っていくなかでイメージや動きにかたよりが出たときには、イメージバスケットを活用してイメージを広げられるようにしていく。

#### ○ 子どもたちの実態を考慮した道すじ

表現の学習に対し「あまり好きではない、嫌い」と答えた子どもたちに詳しくたずねたところ、「作品づくりに難しさを感じる」、「大勢の人に見られるのが恥ずかしい、緊張する」、「どのように動けばよいかわからない」という思いをもっていることがわかった。作品づくりは「ひと流れの動き」をふくらませ、表したいイメージを「はじめ - なか - おわり」の場面構成を工夫して表現することである。表現に対してあまりよい印象をもっていない子どもや、表したいイメージをつかみにくい子どもが多いという本学級の実態を考慮した際、作品づくりの前の段階の即興表現の楽しさを、単元を通して味わわせたいと考えた。

そこで、本単元は毎時間、即興表現で思いつくままに踊ったり、いろいろな友達と取り組むことで子どもたちから出てくる自発的な動きを広めたりして、動きの財産を増やしながらか表したいイメージを広げていくスパイラル型の道すじで取り組む。表したいイメージにじっくり浸りながら作品づくりに取り組むステージ型の道すじよりも、本学級の実態や教師のねらいに合っていると考えた。

＜視点2＞ 一人一人のよさを伸ばし、できる喜びを実感できる手立てを工夫する。

○ 大切にしたい動きの明確化

本学級の、表現が難しいと感じる子にとっては、「どのように動けばよいのかわからない」という気持ちがある。表現の楽しさの一つである「自由に踊る」ことが、逆に難しさを感じさせていると考える。学習を進めることで、どの子どもも自由に踊る楽しさを感じることができるようになりたいと考えるが、そのためには表現を楽しむための動きを教師が明確にもち、子どもたちに学ばせたい。今回、大切にしたい動きは以下のものとする。

- 大げさな動き（指先から髪の毛の先まで、全身を使って、誇張して表現する）
- ストップモーション（一瞬止まる）
- スローモーション（ゆっくり動く）
- ねじる動き（体を前後・左右にねじる）
- 視線をはっきりさせる（感じを込めてなりきって踊る）

これらの大切にしたい動きは、毎時間ダンスウォーミングアップで取り入れる。視線はできるだけはっきりさせながら「大げさな動き・ストップモーション・スローモーション・ねじる動き」を大きく移動しながら曲に合わせて踊るようにする。

どの子どもも安心して取り組めるように円形コミュニケーションで座ってリズムをとっていきながら始める。徐々に動かす部分を増やしていき、2人組のダンスウォーミングアップにつなげる。2人組では、教師の声かけで動く時間と子どもが自由に踊る時間を入れていく。またダンスウォーミングアップでは、教師が声をかけたり一緒に踊ったりすることで動きのヒントになるようにする。毎時間同じ動きを経験することや、友達と一緒に踊ることが、どのように動けばよいのかわからない子にとって動きのヒントや幅を広げることにつながると考える。

曲については、大切にしたい動きが出やすく、リズムにのりやすいものを選ぶ。曲調も後半勢いのあるものにするすることで、心も体も弾んだ状態で表現にうつれるようにしたい。

ダンスウォーミングアップを通じて、子どもたちが自らの動きを意識することで、表現で動く際のヒントになるようにしたい。例えば、教師が「〇〇さんのスローモーションが～」とよい動きを広めようとしても、子どもたちがその動きを経験していないとイメージすることが難しいだろう。そこで、今回はダンスウォーミングアップで全員に大切にしたい動きを経験させ、子どもたちのイメージを体で表現する手助けにしたい。また、自らの動きだけでなく、子ども同士が互いを見合うポイントもはっきりしてくると考える。「友達にアドバイスをすることができる」という質問に対して、半分の子どものができないと考えている。見合うポイントが分かれば、アドバイスをし合うことにつながるだろう。そうした発見を積み重ねることで、表現そのものの楽しさを感じるきっかけになったり、自分の動きをよくすることにつながったりすると考える。

#### 4 学習のねらい

- 「対決！」の表現に進んで取り組み、互いのよさを認め合って練習や発表をしたり、場の安全に気を配ったりしようとしている。 【関心・意欲・態度】
- 自分たちのグループのよさを知るとともに、自分やグループの課題に応じた動きを選んだり、自分やグループのよさを生かす動きを見付けたりしている。 【思考・判断】
- 「対決！」から表したいイメージをとらえ、即興的に表現したり友達と感じを込めて踊ったりすることができる。 【技能】

#### 5 評価規準（おおむね満足できる状況）

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「対決！」の表したい感じを表現したり踊りの特徴を捉えたりして踊る楽しさや喜びに触れることができるよう、表現運動に進んで取り組もうとしている。</li> <li>・約束を守り友達と助け合っ て練習や発表、交流をしようとしている。</li> <li>・運動する場の安全を保持することに気を配ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の解決の仕方を知るとともに、自分やグループの課題に応じた動きを選んだり、構成を変えたりしている。</li> <li>・自分やグループのよさを知るとともに、練習や発表会、交流会で自分やグループのよさを生かす動きを見つけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「対決！」から表したいイメージを捉え、即興的な表現や簡単なひとまとまりの表現で踊ることができる。</li> </ul>
学習指導に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「対決！」の表現に進んで取り組もうとしている。</li> <li>②互いのよさを認め合って、練習や発表をしようとしている。</li> <li>③活動の場の安全に気を配ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「対決！」のイメージから対決の特徴的な動きを見つけ自分の動きに取り入れている。</li> <li>②気に入った「対決！」のイメージを選び、表したい感を強調できるように、動きに変化と起伏をつけて、動きや動き方を工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「対決！」からいろいろなイメージをとらえ、ひと流れの動きで即興的に踊ることができる。</li> <li>②気に入った「対決！」のイメージの表したい感を強調するように、全身を使い、動きに変化と起伏をつけて踊ることができる。</li> </ul>



6 学習の道すじ（本時 5／6）

	1	2	3	4	5（本時）	6	
0	心と体をほぐす活動（ダンスウォーミングアップ）						
45	オリエンテーション  ○「対決！」のイメージで踊る。 ○お互いに見合っところを見つける。	めあて① カルタから「対決！」のイメージを広げて、ひと流れの動きで即興的に踊って楽しむ。  ○2人組でイメージカルタをめくりながら思いつくままに踊る。（2人組のペアは毎時間変えていく。）				めあて② 一番表したいイメージが強まるように、動きを工夫して踊って楽しむ。  ○2人組で一番表したいイメージを選び、同じようなイメージを選んだ2つのグループで4～6人組を作る。 ○「はじめ」と「おわり」をつけ、一番表したいイメージの特徴や様子がわかるように動きを工夫する。 ○他のグループと見合っところを見つれたり、アドバイスをしたりする。	
							まとめ
関	③	①				②	
思			①		②		
技				①		②	

7 学習活動と支援

	学習内容と活動	教師の支援・指導・評価
はじめ	<p>1 オリエンテーションをする。</p> <p>○学習のねらいや道すじ、約束、安全面、学習カードの使い方の確認をし、学習の進め方に見通しをもつ。</p> <p>○心と体をほぐす活動をする。</p> <p>○「対決！」からイメージすることを出し合っイメージバスケット・カルタをつくる。</p> <p>○2人組でカルタをめくっ即興的に踊ってみる。</p> <p>○踊っみた感想を出し合っ、学習の見通しをもつ。</p> <p>◇活動の場の安全に気を配ろうとしている。</p>	<p>【関心・意欲・態度③】</p>



	学習内容と活動	教師の支援・指導・評価
な	<p>1 心と体をほぐす活動</p> <p>♪ゆず 「ヒカレ」 ♪三代目 JSB 「O・R・I・O・N」</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>座った姿勢でリズムを取り、慣れてきたら立った姿勢になり、2人組で踊る。</li> <li>曲調に乗って全身で弾んで踊る。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>動きのポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大げさな動き</li> <li>・ストップモーション</li> <li>・スローモーション</li> <li>・ねじる動き</li> <li>・視線をはっきりさせる</li> </ul> </div> <p>2 本時のめあてと学習の進め方を確認する。</p>	<p>○教師のリードで、座った姿勢で、手拍子などでいろいろなリズムを取り、楽しむようにする。</p> <p>○立って踊るときに自由に踊れない子には、すぐにまねできそうな動きを教師が取り入れる。(教師の動きを感じながら踊るように伝える。)</p> <p>○曲の途中で曲調が変わるものを用意する。</p> <p>○踊るのが難しい子には、動きのポイントを助言したり、先生や友達の真似をして踊ってもよいと助言したりする。</p> <p>○動きのポイントを意識して踊っている子を称賛し、動きを全体に広めていく。</p>
か	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて① カルタから「対決！」のイメージを広げて、ひと流れの動きで即興的に踊って楽しむ。</p> </div> <p>3 イメージカルタをめくりながら思いっくままに踊る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2人組での活動。</li> <li>・カルタとカルタの間もなりきって移動する。</li> <li>・イメージができないカルタをめくった場合は、そっと元に戻してもよい。</li> <li>・気に入った動きを繰り返し踊って楽しむ。</li> </ul> <p>&lt;予想されるカルタの例&gt;</p> <p>(向かい合う対立した動き)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボクシングの激しい攻防</li> </ul> <p>(追う追われるに対応した動き)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・犯人を追いかける警官</li> </ul> <p>(人数を増やした戦いや追う追われると組み合わせさせた動き)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・閉じ込められた！出口はどこだ！</li> </ul> 	<p>○イメージするのが難しい子には、友達の踊りを見て、まねをして踊ってみよう助言する。</p> <p>○イメージをもって踊っている子どもや動きのよい子どもを称賛する。</p> <p>◇「対決！」の表現に進んで取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度①】</p> <p>○実際には体に触れず、本当に戦っているように見せる表現の仕方や、動きの変化のさせ方を一緒に踊りながら助言する。</p> <p>○動きのポイントを意識して踊っている子どもや、表情がなりきっていたり、口伴奏、手伴奏、足伴奏などをしていたりするペアを称賛し、全体に広める。</p> <p>◇「対決！」のイメージから対決の特徴的な動きを見つけ、自分の動きに取り入れている。 【思考・判断①】</p>

めあて② 一番表したいイメージが強まるように、動きを工夫して踊って楽しむ。

な  
か

4 一番表したいイメージを選び、同じイメージを選んだペア同士で4～6人のグループを作る。

- ・「2人の戦い」「追う追われる」「危機一髪」の3つの大きなイメージグループに区分して、その中でさらに近いイメージ同士でグループをつくる。

5 4～6人組でお互いの踊りを見合ったり、まねして踊ったりする。

- ・一番気に入ったイメージを、ひと流れの動きにして2人組で踊る。
- ・相手の動きを見る→真似して踊る→よいところを伝える。
- ・4～6人で一番表したいイメージの特徴や様子がわかるように動きを工夫して踊る。



(教師の声かけの例)

- ・一番表したい動きを繰り返そう。
- ・ゆっくりした動きから、急に速く動いてみよう。
- ・強調したい部分だけを残して、余分なところはカットしよう。
- ・自分なりのはじめ方とおわり方で、見ている人の心をつかもう。

○表したいイメージに偏りが見られたときは、イメージバスケットを活用して「対決！」のイメージを広げるようにする。

○カルタが3つのイメージのどれに当てはまるかシールを貼ってわかるようにする。

○めあて①での動きからイメージを膨らませ、自分たちで自由に動くことを確認する。

○大きさに動くこと、動きに緩急や強弱をつけることで強調したい場面がよりはっきりすることを助言する。

○よい動きやおもしろい動きを見つけたり、自分ならこう動くというアドバイスをしたりして、互いのよさを認め合うようにする。

◇「対決！」からいろいろなイメージをとらえ、ひと流れの動きで即興的に踊ることができる。

【技能①】

○一番表したい場面が強調されるように、身体の使い方・空間の使い方・リズムの変え方・友達とのかかわり方の四つを中心に声をかける。

○よい動きをしていた子どもやグループを取り上げ、称賛し、そのよさを全体に広めていくようにする。


◇互いのよさを認め合って、練習や発表をしようとしている。

【関心・意欲・態度②】

◇気に入った「対決！」のイメージを選び、表したい感を強調できるように、動きに変化と起伏をつけて、動きや動き方を工夫している。

【思考・判断②】

◇気に入った「対決！」のイメージを選び、

<p>な か</p>	<p>6 4～6人組グループで踊り、他のグループと見合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4～6人で一番表したいイメージの特徴や様子がわかるように動きを工夫して踊る。</li> <li>・よかったところを伝えたり、こうするともっとよくなることをアドバイスしたりする。</li> <li>・アドバイスを生かして、もう一度踊る。</li> </ul> <p>(6時間目はまとめ)</p>  <p>7 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードに記入する。</li> </ul>	<p>表したい感を強調するように、全身を使い、動きに変化と起伏をつけて踊ることができる。 【技能②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○まずはよかったところを認め合うように声をかけ、教師が率先してよい動きや動き方を称賛していく。</li> <li>○動きのポイントを意識して、相手のグループをほめたり、アドバイスしていたりする子どもを称賛する。</li> <li>○よかった動きを伝えたり、よりよくなる動きをアドバイスしたりする際に、実際に動いて伝えたほうがわかりやすいことを助言する。</li> <li>○「はじめ」と「おわり」が伝わりやすかったり、よい動きがあったりしたグループを取り上げ称賛し、全体に広めるようにする。</li> <li>○見合った後にもう一度踊るときは、友達からのアドバイスを生かして踊るように声をかける。</li> <li>◇気に入った「対決！」のイメージを選び、表したい感を強調できるように、動きに変化と起伏をつけて、動きや動き方を工夫している。 【思考・判断②】</li> <li>◇気に入った「対決！」のイメージを選び、表したい感を強調するように、全身を使い、動きに変化と起伏をつけて踊ることができる。 【技能②】</li> </ul> <p>○学習を振り返り、次時に見通しをもてるようにする。</p>
<p>ま と め</p>	<p>○ 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の学習に進んで取り組み、即興的に踊る楽しさにふれることができたか。</li> <li>・学習のきまりを守り、安全に気を配って楽しく学習することができたか。</li> <li>・イメージから特徴的な動きを見つけ、自分やグループの動きに取り入れることができたか。</li> <li>・気に入ったイメージを選び、表したい感を強調できるように変化と起伏をつけて、動きや動き方を工夫することができたか。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"><li>・よい動きを見つけ、自分に生かすことができたか。</li><li>・ひと流れの動きで、イメージを強調して踊ることができたか。</li></ul> <p>○ 一番表したいイメージの特徴や様子ができるように動きを工夫した踊りを発表する。 (見合う形態は、学級全体、3・4グループ、ペアグループなど実態に応じて決める。)</p>
--	---